

## 別紙様式 1

### 令和 4 年度明德中学校区研究推進計画

校番 (30) 吳市立明德小学校

校長名 平岡 恵美子

#### 1 学校教育目標

「確かな学力と豊かな心を持ち 主体的に生きる児童生徒を育成する」

#### 2 目指す児童生徒像

「人とのつながりの中で、自他を尊重し、自ら考え判断し、意欲的に自己を表現する子ども」

#### 3 育成を目指す資質・能力 (具体の姿)

	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
資質・能力 設定した	学習の素地として確実に習得させるべき基礎的・基本的な学習内容	各教科の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら, 知識を相互に関連付け, より深く理解する力	他者との関わりを通して, 異なった価値観や考え方に触れ, 自らの考えを広げたり深めたりしながら, 粘り強く物事に向かおうとする力
後期	学習の素地として確実に身に付けておく必要がある知識・技能を習得しており, 他の学習や生活の場面でも活用できている。	複数の情報を多様な方法で関連付け, 論理的に, 自分の考えを表現している。	物事の目標に対して, どこまで達成したのかを把握し, どんなことが課題に残ったのかを考え, これからのどのようなことをやっていきたいのかを試行錯誤している。
中期		複数の情報を結び付け, 理由や根拠を明らかにして, 筋道立てて, 自分の考えを表現している。	物事の目標に対して, どこまで達成したのかを把握し, どんなことが課題に残ったのかを考えようとしている。
前期		理由や根拠を明らかにして, 筋道立てて, 自分の考えを表現している。	物事の目標に対して, どこまで達成したのかを考え, その後も主体的に取り組もうとしている。

#### 4 研究主題等

##### (1) 研究主題

“つながり”の中で自分を磨き, 未来を創り出そうとする子どもの育成  
～ 一人一人の学ぶ喜びを引き出す「個別最適な学び」を通して ～

##### (2) 設定理由 (校区の児童生徒の課題分析等)

児童生徒を取り巻く社会は, 少子高齢化, グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等, 急速な変化により, 予測が困難な時代となっている。

このような時代を生き抜くため, 吳市では「つながり」を重視した教育を展開し, 新しい時代に求められる資質・能力 (例えば「自己を認識し, 自分の人生を選択し, 表現することができる力」) を育成しようとしている。

昨年度, 「つながりを重視した教育」が育む資質・能力等について, 本中学校区の児童生徒の

実態をつかむためのアンケートを実施した。その結果、「学びと生活、学びと自分とがつながっていない（目指す姿の“つながり”（系統的な資質・能力の育成）」、「地域や社会に対する意識が薄い（家庭・地域社会との“つながり”）」、「相手意識をもとに発言することに苦手意識をもっている（異年齢や学校段階等間の“つながり”）」等が小中共通した課題であることが分かった。

また、全国学力・学習状況調査等の結果から、本中学校区の児童生徒は、小中共通して基礎的な学力が十分定着しているとはいえ、つまずきの分析に基づいた個別の学習支援も充実しているとは言い難い。

これらのことから、明德中学校区で取り組むべき課題を、「呉の学校教育」充実のための3つの重点の一つである「防災教育の充実」を含む次の3つに整理した。

- ① 心身の発達の段階や特性を踏まえた「個別最適な学びと協働的な学びの充実」
- ② 多様な他者と協働した探究的な学びを通じた「地域の構成員の一人としての参画意識及び自己有用感の育成」
- ③ 安心・安全な教育環境の基盤としての「防災教育の充実」

これらの課題を克服するために、「人とのつながりの中で、自他を尊重する児童生徒の育成」を研究テーマとする「つながり部会」と、「個のつまずきに働きかける指導の充実」を研究テーマとする「個別最適な学び加速部会」を設け、目的と方法を共有しながら取組を進めることとする。

### (3) 研究仮説

一人一人の学ぶ喜びを引き出す「個別最適な学び（指導の個別化と学習の個性化）」と、子供同士、あるいは多様な他者との“つながり”を重視した「協働的な学び」を往還させ充実させれば、新しい時代に求められる資質・能力を育成することができるであろう。

## 5 研究内容

**(部会テーマ)** 人とのつながりの中で、自他を尊重する児童生徒の育成

	研究内容
つながり部会	(1) 児童生徒が主体となり、企画・運営する行事等を通して、異年齢の子どもや地域社会など、世代を越えた交流を通じた他者とかかわり合う力の育成 (2) 家庭・地域を巻き込んだ防災教育の充実 (3) 「総合的な学習の時間」と地域社会を結び付けた単元づくり (4) 自己を再認識させるための「生活リズムカード」の工夫 (5) 9年間のカリキュラムマップの実践・検証・改善

**(部会テーマ)** 個のつまずきに働きかける指導の充実（主体的な学びを促進し、一人一人の「わかった」「できた」を重視した授業の創造）

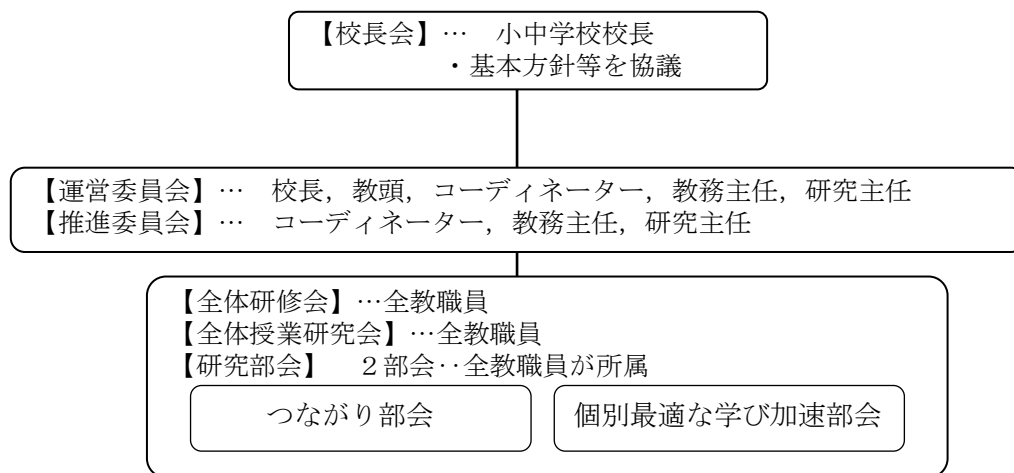
	研究内容
個別最適な学び加速部会	(1) 児童生徒の実態を的確に把握、分析し、個に応じた指導の充実 （個々のつまずきの解消を目指す学習フリータイム、家庭学習（それに伴う「家庭学習の手引き」の改訂）等 (2) 一人一人の子どもが学びを自分ごととして捉えることのできる、また一人一人の子どもの学ぶ喜びを引き出す授業改善 (3) 「対話」を取り入れ、「つながり」や学びを深める授業づくり (4) 知識及び技能を実生活の場面で活用する表現力の育成

## 6 検証について

検証の視点	方法	検証の指標	現状値	達成目標
① 個別最適な学びと協働的な学びの充実	全国学力・学習状況調査（児童生徒質問紙）	・中1，中2，5年の時に受けた授業は，自分に合った考え方，教材，学習時間などになっていた。	肯定的な回答 小100% 中58.3%	肯定的な回答 小90% 中80%以上
	全国学力・学習状況調査（国・算・数）	・平均通過率（全国）との差	小 + 1.1 中 -11.4 (国・数の平均)	小 +3 中 +3
② 地域の構成員の一人としての参画意識及び自己有用感の育成	全国学力・学習状況調査（児童生徒質問紙）	・地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある。	肯定的な回答 小90.9% 中33.4%	肯定的な回答 小90or95% 中50%以上
		・自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができる。	肯定的な回答 小81.8% 中41.3%	肯定的な回答 小80or85% 中60%以上
③ 防災教育の充実	学校生活についてのアンケート（保護者・児童生徒）	・学校からの防災教育等の情報発信は十分である。	肯定的な回答 小—未実施 中91%	肯定的な回答 小95% 中95%以上
		・「自分の命は自分で守る」という防災の基本を理解している。	—	肯定的な回答 小90% 中90%以上

## 7 推進体制等

### (1) 推進組織



### (2) 乗り入れ授業

(中→小)

- ・小学校第5・6学年 音楽科（2学期）  
合唱指導
- ・小学校第5・6学年 体育科（3学期）  
ダンス「音戸の舟唄」の指導（特別非常勤講師とのTT）

(小→中)

- ・学習フリータイムでの乗り入れ相互指導
- ・中学校SSRでの個別指導（小学校の内容の復習）
- ・道徳及び特別活動で協働した授業づくりの実施

## 8 推進計画

月 日	内 容	
	明徳中	明徳小
4月11日	○運営委員会① 今年度の計画（日程など）の詳細決定	
5月 9日	○研究部会①（各部会）取組の共通理解・年間計画，研究テーマの確認	
5月	・明徳中授業交流期間（23日～27日）	・校内研修
6月	・校内研修	・校内研修
6月30日	○全体研修会① 「SELに係る研修」 福岡教育大学 山田洋平准教授を招聘	
7月	・校内研修	・校内研修
8月 5日	○研究部会② 進捗状況・情報交換	
9月	○クリーンキャンペーンに代わる取組→合同避難訓練を予定	
10月12日	○全体研修会② 授業研究「総合的な学習の時間」（小学4年生）を実施 安田女子大学 朝倉教授を招聘	
11月	○明徳中授業交流期間（7日～11日）で研究授業（数学科）を実施 明徳小学校からも参加	
11月		○授業研究3年・5年
12月	・校内研修	○校内研修
1月	・明徳中授業交流期間（16日～20日）	○授業研究1年
2月20日	○研究部会③（各部会）取組のまとめ	
3月	○運営委員会 次年度に向けての計画作成	

※明徳中学校区では、それぞれの校内授業研究での小・中学校教職員の相互参加を予定

※明徳中学校では上記の他に理科，音楽科で授業研究を予定（実施日時は未定）

- 「小中一貫教育だより」の発行  
1学期・小（幹事校），2学期・中，3学期・小
- 小中合同行事の実施